

idea

NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。
ニュースレター アイデア

2015
1月号

つながり×ひろがる

いちのせき市民活動センター



～ も く じ ～

- 2 | 二言三言～ 地域協働推進員から見た地域の協働 ～
- 4 | 団体紹介～ 大里田植踊り保存会 ～(室根)
- 5 | 地域紹介～ 藤沢町黄海 第17区自治会 ～(藤沢)
- 6 | 企業紹介～ 株式会社 足利工業 ～(大東)
- 7 | センターの〇〇～新年のご挨拶-スタッフ一同より- ～

フタコト×ミコト

第8回 二言三言 14/124,499

地域協働推進員から見た地域の協働

対談者 藤沢町住民自治協議会 地域協働推進員 伊勢 徳郎 さん
室根まちづくり協議会 地域協働推進員 佐藤 紀子 さん
老松みどりの郷協議会 地域協働推進員 熊谷 光喜 さん

私達が地域協働推進員です



【熊谷】私は、今年の8月から花泉の老松地区の協働推進員をしております、熊谷光喜です。老松公民館よりお誘いを受け、今は主に公民館の仕事の手伝いをしています。老松出身で、地域の皆さんには昔からお世話になっております。

【佐藤】今年の6月から室根の協働推進員をしています、佐藤紀子です。出身は福島県白河市で、しばらく東京に住み、結婚を機に一関へ引っ越してきました。他の地域から来た方の目線も大事じゃないかという意見もあったようで、ご縁をいただき協働推進員をさせていただく事になりました。活動を始めた頃は「地域を知る」というのが最初で、活動を始めて半年ほど経ちますが、ようやく協働体としてどう運営したらいいんだろうとか、地域づくりって何だろうと考えるようになりました。

【伊勢】私も今年の6月から藤沢の協働推進員をしております、伊勢徳郎です。藤沢町の西口地区に住んでおり、前は公民館の夜の代行員等を行っていました。藤沢町で地域づくり計画を作成する段階で、8地区・8名の協働推進員がおり、その頃から協働推進員として携わっています。

先日、藤沢町の協働体「藤沢町住民自治協議会」が

設立されましたが、設立準備に関わる規約の作成や会議の準備等は、私自身初めての経験で、難しいことだと感じました。こういった取り組みに携わることができたのは、経験としてありがたいと思っています。

それぞれの地域協働体と地域づくり計画

【熊谷】藤沢や室根は町全体で一つの協働体組織ですが、私の地域では、旧7村単位で協働体を立ち上げようとしています。中でも老松では一番先に「老松みどりの郷協議会」を立ち上げました。地域づくり計画を作成するにあたり、集落ごとに計画書を出していただきましたが、内容は「道路を作ってほしい」というような要望が多く、「じゃあ、自分達では何ができるのか」という所がまだ薄い状況です。それをこれから話し合い、詰めていきたいと思っています。



【伊勢】藤沢の地域づくり計画を作成する時に、各自治会から提出された「地域資源」や「地域の自慢」の項目は、空欄が多かったです。「地域にはこんな課題がある」「ここを改善したい」ということも大事ですが、自分達が住む地域の良いところや宝物に気付き、それに誇りを持ち皆で守ることも大切なのではないかと、それが、地域づくりの元になっていくのではないかと思います。



室根地域
佐藤 紀子 さん
地域協働推進員

【佐藤】室根まちづくり協議会でも、これから地域づくり計画に取り掛かります。協働の進め方は地域ごとに違うと思いますが、室根は“急がない”で行っています。計画を立て、実際に進めていくのは室根に住む皆さんなので、じっくりと時間をかけて皆さんの同意をもらいながら、皆で進めていくという姿勢は、いいんじゃないかと思っています。

室根まちづくり協議会を地域の皆さんに知っていただくツールとして、「むすび」という会報紙を発行しています。毎月発行される一関市広報の配架に併せて、むすびも配布しています。その他、「若者の声が聴きたい」として、20～40代の若い世代で構成される「若者推薦委員会」という集まりが設けられ、私はそのサポートも行っています。

【伊勢】藤沢町の地域づくり計画は、藤沢町全体・8地区・43自治会と3つの計画をまとめたものなので、三層構造と言われたりしています。私達は、この計画は40年かけて作り上げたという意識でおります。というのも、藤沢町の自治会活動が始まってもうすぐ40年になるのですが、4～5年ごとにそれぞれの地域計画は立てていました。それを藤沢町にある43の自治会からもれなく計画書を提出していただき作り上げたものなんです。

この計画を実際に進めていくのはまた別の次元・新しい段階ですよ。ただし、大事なことは「話し合うこと」じゃないでしょうか。佐藤さんも言われているように、時間がかかるものだと思いますよ。40年間かけて「自治会は自分達のものだ」という意識をつくれたと思えば、協働に関してもきっと何十年とかかるのではないかと思っています。地域の方の中には、協働を「何それ？」と言う方もいらっしゃるのです。

【熊谷】「協働」なんて立派な言葉ですが、今まで行ってきた活動が協働になっていると思います。老松の地域づくり計画には、今までの各集落や各団体で行っている活動も地域づくり計画に組み入れていこうと考えています。

【伊勢】そこを皆に知ってもらおう大事なところかなと思いますね。

【熊谷】地域の方の中には「市民センター」＝「指定管理」という認識の方もいるようです。実際には別ものですが、そのあたりがまだしっかり浸透していないようです。

【佐藤】協働という言葉が難しくさせてしまっているだけで、実際の内容はとてもシンプルなのかなと思います。今まで皆さんが行ってきたことを、整理しながら皆でやっていくんですよというところを知っていただければ良いですよ、きっと。言葉の意味が伝わりきらないから、不安が先にきて、受け止めるのが難しくなるだけであって、シンプルな中身をちゃんとお届けできたらいいなと思います。

皆さんの「やりたい！」を応援します

【佐藤】私の中で地域協働推進員というのは、「協働を推進していく人」と思っています。室根の皆さんがやりたいことや、豊かになる・幸せになるための計画づくりですから、それに対して地域の方がどうしていきたいかということを一生涯懸命受け取り、できる範囲で精いっぱいお手伝い・応援していきたいという気持ちです。

【熊谷】私も佐藤さんと同じ気持ちです。目標としては、今取り組んでいる地域づくり計画を完成させたいと思います。

【伊勢】藤沢町の地域づくり計画を進めていきますが、事業の優先順位や、細かいところ等を引き続き話し合いながら進め、私はそのお手伝いをしていきたいと思っています。それから、「協働推進員って何ですか？」と聞かれるので、新年会や総会に積極的に参加するなど、地域の方と顔を合わせて自分のことを少しずつ知ってもらいたいと思っています。私は外歩き仕事をずっと行っていたので、中にばかりいるのは性に合わないのですね。今後とも地域のために、地域の皆さんのためにサポートを頑張りたいと思います。

基本情報

【藤沢町住民自治協議会】

住所 〒029-3405 一関市藤沢町藤沢字仁郷12-5 藤沢公民館内
TEL 0191-63-5515 FAX 0191-63-5517

【室根まちづくり協議会】

住所 〒029-1201 一関市室根町折壁字大里201-1 室根公民館内
TEL 0191-64-2347 FAX 0191-64-3044

【老松みどりの郷協議会】

住所 〒029-3103 一関市花泉町老松藤田274-2 老松公民館内
TEL 0191-36-1235 FAX 0191-82-5153

大里田植踊り保存会

団体 紹介



下座も務める
会長の熊谷保治さん(左)

～基本情報～

- ◆会 長：熊谷保治さん(2代目会長)
- ◆連絡先：〒029-1201
一関市室根町折壁新館前 77 - 1
(熊谷さんご自宅)
- ◆電 話：0191-64-2033

親から子へ、子から孫へ、世代間交流を育む田植踊り

きっかけは若者たちの声

五穀豊穡を祈り踊る「田植踊り」は、東北地方を中心に小正月などに行う民俗芸能です。

かつて室根地域では、毎年1月17日に行われる南流神社の縁日の際に各地区の田植踊りの組が踊りを披露していましたが、現在田植踊りを継承しているのはわずか2団体。その内の1つ「大里田植踊り保存会」は、室根町の大里地区の住民を中心に結成された会です。

いつしか大里地区でも踊られなくなっていた田植踊りですが、昭和50年、大里地区の盆踊り大会に田植踊りの衣装で仮装して参加した人がいたことをきっかけに、「せっかくだから田植踊りを復活させてみようか」と、20～50代の若者たちで会を結成。彼らは田植踊りの経験がなかったため、地区内の経験者に指導を頼み、同年12月から練習を開始しました。

当初は大人たちだけの活動でしたが、仕事との両立が難しく、昭和56年から地区の小学生を中心にした踊りへと変更。しかし、小学生の人数は毎年変わるため、人数不足により活動を休止せざるを得ない状況が数年続いてしまいました。

3度目の活動休止期間に入っていた平成21年、「子ども会で田植踊りに取り組みたい」という声が地区内の育成会から上がります。その時の育成会というのが、小学生を中心に踊り始めた第一期生の世代。小学生の頃の経験を思い出し、親となった今、「自分の子供たちに指導していきたい」という嬉しい声でした。

活動の広がりと共に伴う課題

活動を再開した当初は、地区の敬老会で披露する程度で良いと考えていたそうですが、練習を重ねるにつれ、地域内の老人ホームでの新年会や、各種芸能発

表会など、イベントなどに呼ばれて披露することも増えてきたそうです。

現在、地区内の小学生ほとんどが田植踊りに取り組んでいますが、それでも人数は13名。大里の田植踊りは、主役の弥十郎2人に、カッコと呼ばれる太鼓を叩きながらの踊り手が基本となり、そこに下座(歌あげ)と笛吹がつくため、最低でも10人は必要になります。また、子供たちは下座や笛吹の習得までは難しいため、大人たちが担当していましたが、近年は地区の中で笛吹を立てられず、他の団体にお願いしていました。しかし、発表の場が増えるにつれ、日程が合わずに引き受けてもらえない時があるため、地区内での笛吹の養成が今後の課題だと言います。

繋いでいくために 少子化を乗り越える

小学生が中心になっている以上、安定的に活動を続けることは難しい現状ですが「人数が減ってしまった時には大人たちが代わりに入り、発表の場も敬老会への参加のみにするなどして、休止ではない形で続けていきたい」と熊谷会長は今後を見据えます。「これからの目標は地区内の大人の参加。今は一期生だった若い女性たちが頑張ってくれているので、そこに続いて欲しい」と続けます。

幾度も休止時期を迎えながらも地区の若者によって復活を繰り返してきた大里の田植踊り。今後も地区内の交流を促す大切な橋渡し役として、何世代にも受け継がれて欲しいものです。



地区の自治会館での
練習風景。かつての
一期生が中心になり
指導にあたっています。

地域 紹介



第17区自治会の皆さん

～基本情報～

- ◆自治会長：伊東昭志さん（2期3年目）
- ◆52世帯162人が暮らす第17区自治会ではアイディアマンの自治会長さんを中心に地域の皆さんで作った計画の推進に取り組んでいます。

地域の技術とアイデアをつなぐ自治会活動

まずはやれることから

第17区自治会は藤沢地域黄海地区に流れる1級河川黄海川の南東部に位置し、昭和49年に結成された自治会です。今回お話を伺った自治会長の伊東昭志さんは持ち前のアイデアと地域みんなが持つ技術を繋ぎ、みんなが生きがいを持って暮らせる地域を目指し奮闘しています。

藤沢地域では昨年、一関市が進める「協働のまちづくり」の展開のために各自治会で地域振興計画（ミニ計画）を策定。この計画づくりの取り組みは一関市との合併以前から行われており、各自治会で作った計画を藤沢町の計画に反映させてきたという歴史があります。今回、計画を策定するにあたって、伊東さんには「これまでの計画とは違うものにしたい」という思いがありました。

伊東さんはアイデア工作をするのが好きで、自治会長就任前から交通安全の自作シールを自治会に配布し、飲酒運転防止に努めるなどの活動を行ってきました。今年度は、新しい計画づくりに自分のアイデアを活かせられないかと役員を集め、伊東さんからの「こんな活動をしたい」という提案に対し、役員の皆さんから「どれならすぐに取り組めるか」「何が今自治会に必要か」等の意見を出してもらった話し合いを行い、計画を策定。今年度の総会で計画を実行していくことのできることを得て活動を開始しました。

地域の技術を活かして計画実行

はじめに取り組んだのは、以前から伊東さんが自宅で作っていたゴミ箱ハンガーの制作です。旧東磐井地域で使用されているゴミ袋の形や種類に合わせた木製のゴミ分別ハンガーを、役員を中心に集まって制作し、

自治会内全戸へ配布。新聞に大きく取り上げられ、伊東さんには地域の方からお礼や改善案の声も届くそうです。また、自治会館前には行事の連絡等用に掲示板を設置。「災害時の伝言板、各部会間の連絡などにも使ってほしい」と今後の活用も期待しています。どちらも地元の大工さんの協力を得て制作し、そのほかにも今年は地元の消防団員と協力して防災訓練を行う等、地域みんなが持っている技術や知識を自治会活動につなげられるよう考えています。また、「新聞等で活動を取り上げてもらうことで、地域の人達に『自分達が行っているゴミの持ち帰り、分別活動は道路の清掃草刈作業に従事している方々の負担を軽減し、パッカー車内部からの出火削減にもなっているんだ』と自信や地域へのプライドを持ってもらいたい」と情報発信も積極的に行っています。

“できない理由”よりも“できる方法”を

これからの地域づくりについて、「地域の末端から声を拾ってほしい」と伊東さん。「今はそれぞれ生活に追われ、ゆとりがない。過疎化で出来なくなることも出てくるだろう。それでも安心・安全に暮らしたいという気持ちはみんな同じ。その中で『できない理由』ではなく、『何をやりたいか』『何ならやれるか』『できる方法』を話し合いたい。自分も勉強しながら、みんなが生きがいを持って暮らせる地域を目指したい」と今後の抱負を語っていただきました。



ゴミ分別ハンガー制作の様子と完成したゴミ分別ハンガー
自治会内に全戸配布され喜ばれています

株式会社 足利工業

企業 紹介



代表取締役
足利 徳夫さん

～基本情報～

- ◆代表取締役：足利 徳夫 さん
- ◆連絡先：〒029-0522
一関市大東町曾慶字留館 31-2
- ◆電話：0191-72-3341
- ◆FAX：0191-72-3097

手と手を合わせ地域の幸せづくり

Uターン後の起業

昨年3月、地域の方々に惜しまれながらも閉校となった一関市立曾慶小学校。地域の学び舎がなくなり、子どもたちのにぎやかな声もだんだんと少なくなってきました。そんな中、「地域のことは地域でやっぺし！語り合うべ！」と立ち上がったのが、地域協働体組織「結いネット そげい」です。現在、同団体の会長をなさっているのが、株式会社足利工業の代表取締役である、足利徳夫さんです。

左官職人だった父親の背中を見て成長した足利さんは、「一度は都会で修業を積み、いずれは父親のような左官職人になりたい」という思いで、40年前に東京からUターン。当時は職人として仕事を請け負っていましたが、時代の変化とともに小学校等の大きな施設建設へ目を向け、土木や基礎工事など業務を拡大してきました。当初、数名程度だった従業員も20名を超え平成20年に法人化。現在は、市内に限らず沿岸部や北上市、宮城県登米市などの基礎工事も請け負っています。

同業種との協力

同社が加盟している一般社団法人岩手県建設業協会は、岩手県と災害協定を結んでおり、災害発生時の応急対応を迅速に実施する事ができます。「地域の単独企業としてできることは、残念ながら微力ですが、地域内の建設業のお互いが持っている得意分野を集結すれば、それはそれは大きな力になる」と語る足利さん。

同協会に加盟してから13年以上経っている中で、先の大きな震災などの自然災害等実際に目の当たりにした際は「当社従業員一人ひとりの安否確認後、同協会の一員として、『今自分たちができること』を考え社員一丸となって実行させていただきました」と続けます。

実際、沿岸部の被災地支援に携わり、心を痛めた足利さんをはじめとする同社社員は、少しでも早く復旧が進むよう支援に携わるとともに、地域内の被災箇所修復のため、ボランティア活動を実行。また、災害安全活動等を含めた社員教育にも日々力を入れています。

企業として地域の組織に目を向ける

地域には、企業同士の交流場所や分野に合わせた協会など様々な組織があり、それは地域を支える大きな力ともなります。同社取締役専務の足利哲也さんも、一般社団法人一関青年会議所に所属しており、現在副理事長を務めています。「青年会議所には『奉仕・修練・友情』という三信条があるのですが、活動していくうえで規範となるところ。私は青年会議所活動を通じ、地域活動に参画し、今まで知らなかった一関を発見することができました。今後も青年経済人として一関のこれからの発展を考え、地域に根ざした企業を従業員共々目指していきたいです」と語っていただきました。

また、同社はNPO法人ファンスポルト一関のフットサルチーム「ヴィヴァーレー関」の企業スポンサー。「その経緯は？」と尋ねたところ、「ヴィヴァーレー関の選手と交流を持つ機会の中で、同法人の趣旨に賛同できるものを感じた」とのこと。「なかなか本業が忙しく、同法人の活動を見に行けていない状況ですが、直接活動報告を受けることで当社が微力ながら地域活性化の一助となっていると感じますね。一関の未来を担う若者や、スター選手が誕生することを今後も願っています」と語っていただき、新たな企業貢献の在り方を感じた企業取材でした。



災害時にも対応ができる社有車



センター長

小野寺 浩樹

消滅可能性都市という言葉が全国を駆け巡った昨年。いまや地域は、小さな転換期を迎えています。やろうとしてもやれない現実がある。だから、協働の手法を使って、やれる地域に少しずつ変えていかないとはいけません。持続可能な地域の創造の一步を踏み出しましょう。本年度もどうぞよろしくお祈いします。

主任

畠山 担当地域:一関

お「めえ～」でございます。見た目は羊(ひつじ)、中味は執事(しつじ)を目指し、結石で欠席しない様、駄洒落は程々に頑張ります！

主任

佐々木 担当地域:室根

私事ですが、4月に一関の人口を1人増やす予定です。母になることで、視野が広がる＝パワーアップできると期待し、今年も頑張ります！

支援員

金野 担当地域:一関

昨年は大変お世話になりました。地域の皆様の活動をサポートできるよう、コミュニケーションを密にし、日々笑顔で頑張ります！

支援員

佐藤 担当地域:千厩、藤沢

昨年はこれまで以上に地域に深く関わる機会をいただきました。そこで学んだことを活かせるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。

支援員

狩野 担当地域:花泉、川崎

昨年は花泉、川崎地域の担当として皆様方には大変お世話になりました。今年も地域の素晴らしい取組みを訪ね歩き、発信したいと思います。

支援員

須藤 担当:事務

昨年はポスターやウェブのデザインなどの仕事を担当させていただきました。今年には知識や技術を身に付けて情報発信を頑張ります。

支援員

鈴木 担当地域:東山

本年も何卒よろしくお願いいたします。昨年は皆様にお世話になりました。今年も一つ一つ取り組み、業務に努めて参りたいと思います。

支援員

千葉 担当地域:大東

地域の方々の笑顔がたくさん拝見することができた一年でした。今年も地域にお邪魔し、たくさんの笑顔に出会いたいと思います。

おしらせ

花泉

おはなし会

花泉図書館では、ボランティアサークル、図書館職員による絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊びなどを開催します。絵本と触れ合うこの機会に、ぜひご参加ください。

【日時】平成27年1月11日(日)11:00~11:30
【場所】花泉図書館
【料金】無料
【問合せ】花泉図書館
【電話】0191-82-4939

室根

室根こども冬まつり2015

みんなで冬の季節を感じながらかまくら職人と子どもたちが「かまくら」をつくってキャンドルを照らしたり、男性保育士による歌や踊りを楽しんだりします。夕方からゆるキャラが大集合するので会いたい方は注目です。

【日時】平成27年1月23日(金)9:30~
【場所】室根支所駐車場
【料金】無料
【問合せ】室根支所保健福祉課
【電話】0191-64-3805

一関

岩手一関 第8回全国わんこもち大会

一関の餅文化をユニークに発信する、岩手名物“わんこそば”ならぬ“わんこもち”!2人1組、または個人でエントリーし、5分で何個の餅を食べられるかを競う大会です。

【日時】平成27年2月1日(日)10:00~15:00
【場所】なのはなプラザ2階
【料金】見学は無料。エントリーにはお金がかかります。
【問合せ】未来塾
【電話】0191-26-6400

川崎

いちご祭り

甘くて美味しい、いちごの収穫を体験できます。お土産用のいちごも販売しています。ご家族連れでどうぞお越し下さい。赤いいちごが無くなり次シーズンとして閉園になります。平日は要予約となります。

【期間】平成27年2月1日(日)~5月17日(日)
【場所】一関市川崎町門崎字霞畑
【料金】大人1,200円、小人1,000円
【問合せ】観光いちご園「もぐもぐの里」
【電話】090-6854-4569

藤沢

2015年 館ヶ森風祭り

館ヶ森高原エリア内で冬の恒例イベントである「館ヶ森風祭り」。今年度の一週目は、館ヶ森高原ホテルで手作り凧を製作した後、館ヶ森アーク牧場で凧揚げ大会を開催します。

【日時】平成27年2月1日(日)10:00~15:00
【場所】館ヶ森高原ホテル・館ヶ森アーク牧場
【料金】材料費800円(温泉入浴券付)
【問合せ】館ヶ森アーク牧場
【電話】0191-63-5100

一関

第28回一関バッハフェスティバル

バイオリンのティセナさん、フルートの蕎麦田さやかさん、ピアノの高橋咲千子さんをゲストに、ピアノ4台アンサンブルによる、バッハの先生と100人の子どもたちパート9、赤ちゃんコンサート2を開催します。

【日時】平成27年2月8日(日)14時30分開演
【場所】一関文化センター大ホール
【料金】無料
【問合せ】一関文化祭実行委員会
【電話】0191-23-7261

大東

大東大原水かけ祭り

浴道で待ち構えた人達から容赦のない冷水を浴びせかけられながら、「火防祈願」「無病息災」「家内安全」を祈って勇ましく走り抜ける裸男達。350年前の江戸時代から続く伝統的な祭りで、極寒の2月に行われることから“天下の奇祭”と呼ばれます。

【日時】平成27年2月11日(水)9:00~15:50
【場所】一関市大東町大原 大原商店街ほか
【料金】無料
【問合せ】一関市・大東大原水かけ祭り保存会
【電話】0191-72-2282(大原公民館内)

千厩

第8回せんまやひなまつり

桃の節句を大正ロマン漂う千厩酒のくら交流施設(国有形文化財旧佐藤家住宅・旧横屋酒造)や千厩商店街で、ひな飾りや手作りつるし雛をはんなり楽しんでみませんか。

【期間】平成27年2月11日(水)~3月3日(火)10:00~16:00
【場所】千厩酒のくら交流施設
【料金】入場料100円
【問合せ】千厩酒のくら交流施設
【電話】0191-53-2070

東山

有償ボランティア募集

NPO法人ワークハウス雲では、宅配弁当屋、便利屋、手芸などで利用者や交流し、一緒に仕事をしたり指導をしたりするボランティアを募集します。詳細はお問い合わせください。

【期間】平成26年12月5日(金)~決定まで
【場所】NPO法人ワークハウス雲
【報酬】1日2,000円 交通費500円+ガソリン代(月2回のみ)
【問合せ】代表 渡邊知子
【電話】090-7073-4985

今月の表紙



花泉の中心部を流れる金流川。中学校や図書館のすぐ近くには今年も冬の使者ハクチョウが羽を休めに集まり、市民の目を楽しませています。

Q&A あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q NPOは非営利だからお金をもらってはいけない?

A 非営利の意味は、利益を追求しないということです。企業のように、株主配当や利益分配をしないで、利益をその後の活動のために使う約束をしているのが、非営利団体という事になります。

